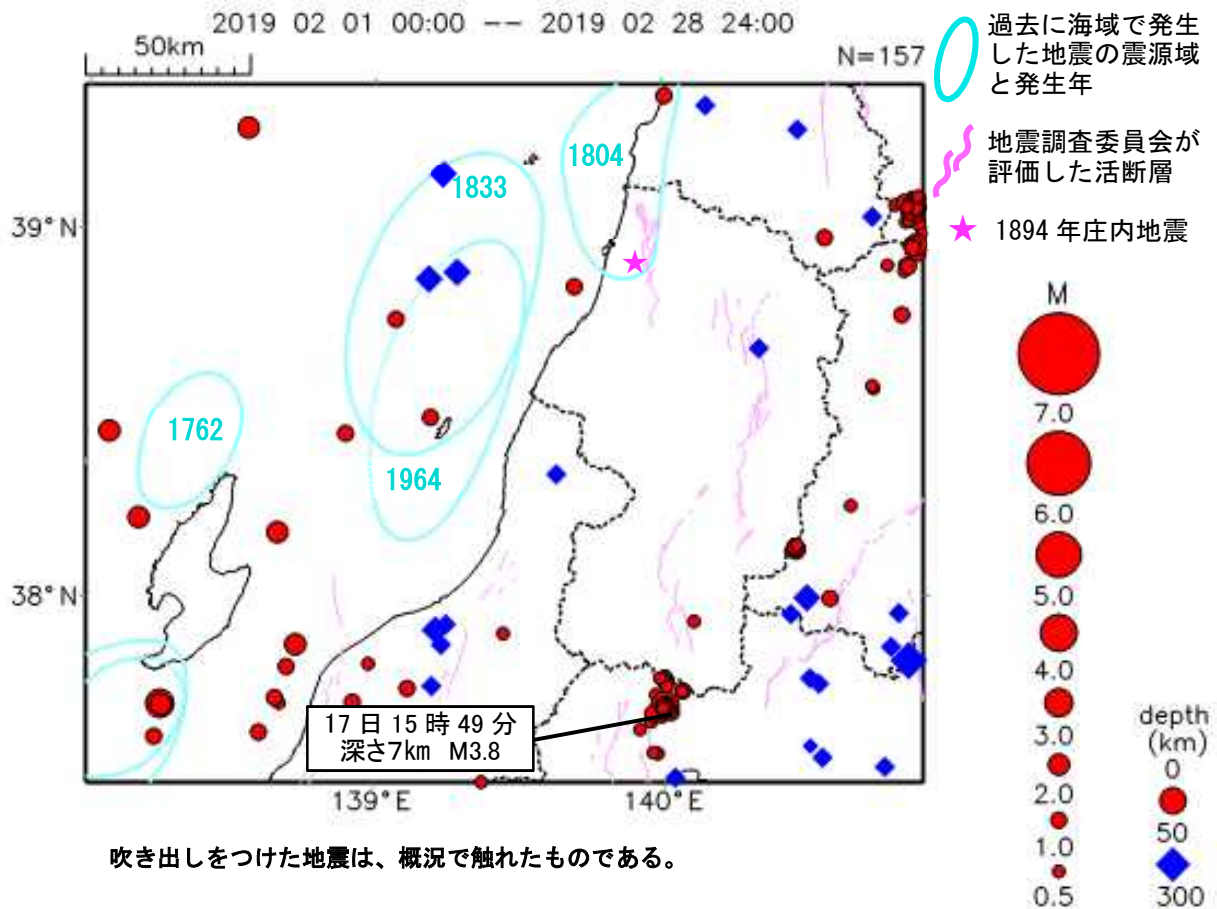


山形県月間地震概況（2019年2月）

山形地方気象台

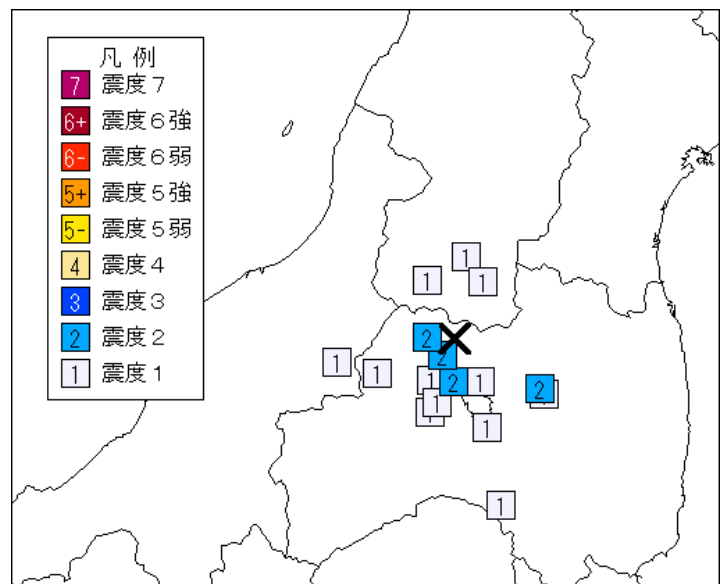


【概況】

この期間、山形県とその周辺（上図の範囲内）で観測した地震は157回であった。また期間中に県内で震度1以上を観測した地震は2回（前期間5回）であった。

17日 15時 49分に福島県会津の深さ7kmでM3.8の地震（右図）が発生し、福島県で震度2を観測したほか、山形県、福島県、新潟県で震度1を観測した。この地震は地殻内で発生した。

24日 9時 33分に福島県沖の深さ34kmでM4.8に地震が発生し、東北中部から北関東にかけて震度2から1を観測した。

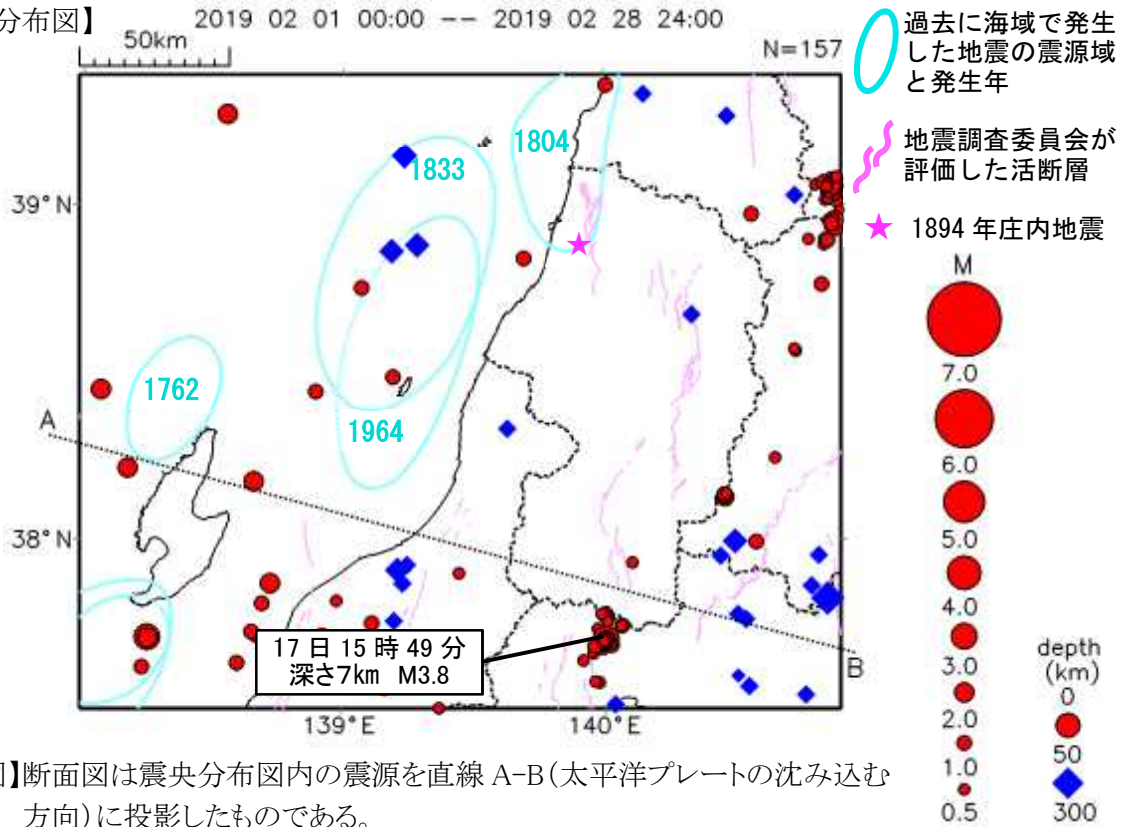


17日 15時 49分に福島県会津で発生した地震（M3.8）の震央（×）と市町村別震度

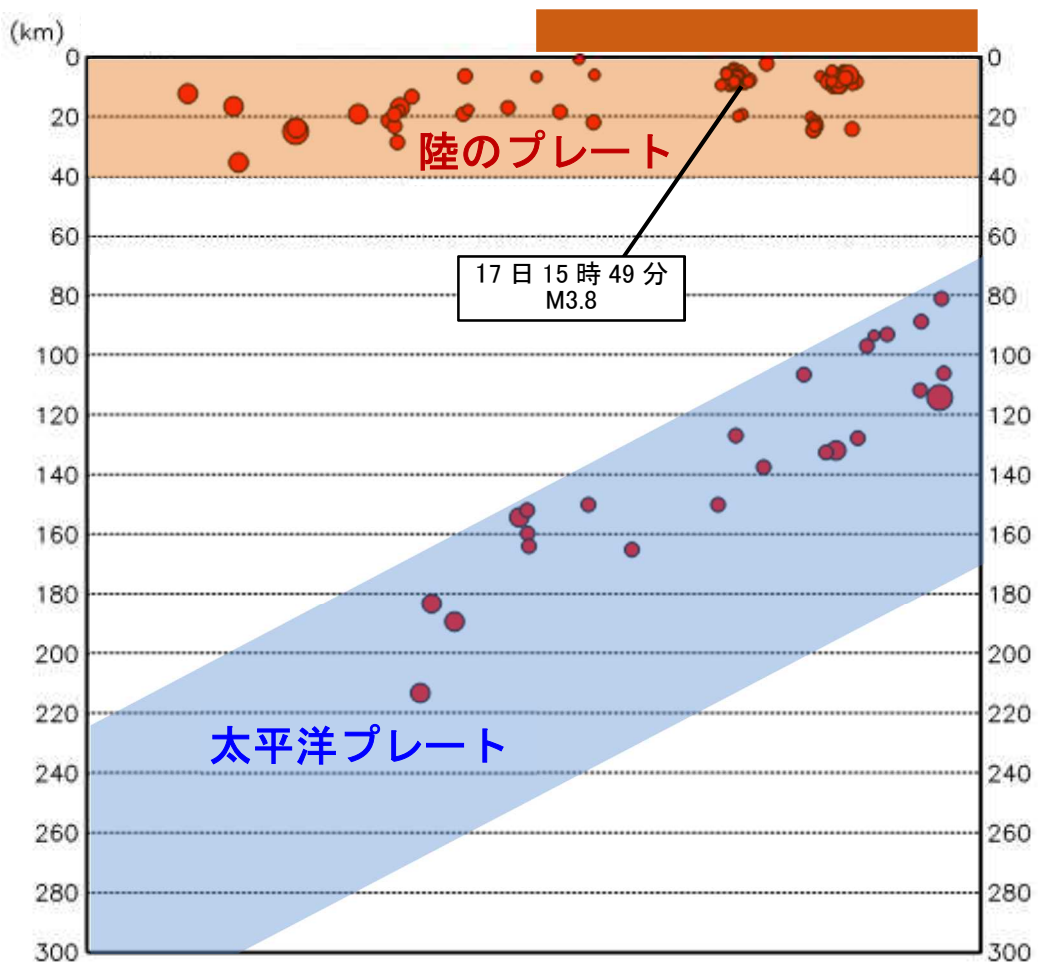
※本資料では、地震の規模を示すマグニチュードを「M」として表記している。

※山形県の各地の震度の詳細は、別紙「山形県で震度1以上を観測した地震の表」を参照。なお震源要素等は、再調査により変更することがある。


【震央分布図】



【断面図】断面図は震央分布図内の震源を直線 A-B(太平洋プレートの沈み込む方向)に投影したものである。



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※  は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。なお、沖合いの地殻内で発生する地震の震源は、実際はより浅いものが多いと考えられる。

山形県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2019年2月1日～2019年2月28日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2019年02月17日15時49分	福島県会津	37° 42.5' N	140° 00.0' E	7km	M3.8
山形県	震度 1 : 米沢市駅前 米沢市アルカディア 米沢市林泉寺* 山形川西町上小松* 飯豊町上原*				
2019年02月24日09時33分	福島県沖	37° 29.2' N	142° 00.0' E	34km	M4.8
山形県	震度 1 : 上山市河崎* 中山町長崎* 米沢市駅前 米沢市アルカディア 米沢市林泉寺* 米沢市金池* 南陽市三間通* 高島町高島*				

(注) 地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。

各地の震度は山形県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

主要活断層帯の長期評価結果の更新

地震調査研究推進本部では、「同じ場所で同じような地震がほぼ定期的に繰り返す」という仮定のもとに、大きな被害をもたらす可能性が高い、プレート境界やその付近で起きる地震（海溝型地震）や活断層で起きる地震について地震発生確率値を含む長期評価結果を公表しています。

地震発生確率値は、歴史記録や調査研究等から分かった過去の地震活動記録を統計的に処理し、「今後ある一定期間内に地震が発生する可能性」を確率で表現したものです。

これまでの算定基準日（2018年1月1日）から1年が経過したことから、2019年1月1日を基準日として算定した地震の発生確率値が公表されました。

山形県内の主要活断層帯の長期評価結果（算定基準日 2019年1月1日）

断層帯名	地震規模 (マグニチュード)	発生確率 のランク (注1)	地震発生確率 30年以内(注2)	地震後経過率 (注3)	平均活動間隔
					最新活動時期
庄内平野東縁断層帯 (北部)	7.1程度	Zランク	ほぼ0%	0.08-0.1 もしくはそれ以上	1,000年-1,500年程度 もしくはそれ以下 1894年庄内地震
庄内平野東縁断層帯 (南部)	6.9程度	S*ランク	ほぼ0%~6%	0.05-1.2	約2,500年-4,600年 約3,000年前-18世紀
新庄盆地断層帯 (東部)	7.1程度	S*ランク	5%以下	1.6以下	4,000年程度 約6,200年前以後
新庄盆地断層帯 (西部)	6.9程度	Aランク	0.6%	不明	4,700年程度 不明
山形盆地断層帯 (北部)	7.3程度	S*ランク	0.003%~8%	0.4-1.6	約2,500年-4,000年 約3,900年前-1,600年前
山形盆地断層帯 (南部)	7.3程度	Aランク	1%	不明	2500年程度 不明
長井盆地西縁断層帯	7.7程度	Zランク	0.02%以下	0.5以下	5,000年-6,300年程度 約2,400年前以後

(注1) 活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上(高い)を「Sランク」、0.1~3% (やや高い)を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明(すぐに地震が起きることが否定できない)を「Xランク」と表記している。地震後経過率が0.7以上である活断層は、ランクに*を付記している。

(注2) 確率値は有効数字1桁で記述している。また「ほぼ0」とあるのは、 10^{-3} %未満の確率値を表す。

(注3) 最新活動(地震発生)時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。値は0.1単位で記述し、0.1未満の場合は有効数字1桁で記述している。

ランク分けに関わらず、日本ではどの場所においても、地震による強い揺れに見舞われるおそれがあります。

主要活断層帯及び海溝型地震の長期評価結果の詳細については、以下の地震調査研究推進本部のホームページを確認してください。

(https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/)